2026 年度　大学院一般入試（Ⅱ期）　専門科目（スポーツ心理学）　解答例

問１

デシとライアンによって提唱された理論である。デシは、内発的動機づけの中核となる欲求は、自分の能力を発揮して目標を達成したいという「有能さへの欲求」、自分の行動は自分で決めて行いたいという「自律性の欲求」、関係する他者との関わりを持ち愛着を得たいという「関係性の欲求」の３つであると指摘し、これらがみたされたときに内発的動機づけが高まると説明した。

また、外発的動機づけには自律的な要素が含まれる場合があり、その程度によって 4 つの段階に分けられると指摘した。すなわち、外的な社会的価値観などを自分自身の価値観としてとらえ直し受け入れていく過程を「自己調整」あるいは「内在化」と呼び、各段階を「外的調整」「取入れ的調整」「同一化的調整」「統合的調整」と連続的に位置づけた。

外的調整の段階は、自律性がもっとも低い段階で、行動に対する価値は自発的には見出されておらず、行動は報酬を得ることや罰を避けることなど、外的な理由からのみ行われている。取入れ的調整の段階は、外的調整よりもやや自律性の程度が進んで（価値の内在化が始まって）おり、行動は外的な理由に基づくが、内面に生じる罪悪感の回避や恥の低減、あるいはその場限りの自尊感情を満たすなど、わずかに自分自身の理由が関連づけられている。同一化的調整の段階は、取り入れ的調整の段階からさらに自律性の程度が進んでおり、外的な理由による行動ではあるが、それを行うことの重要性は受け入れられ、行動の価値の内在化が進んでいる。統合的調整の段階は、外発的動機づけの中でもっとも自律性の程度が高く、行動の価値の認識が個人の中にもとからある肯定的な価値や目標などと調和しており、依然として外的な理由に基づく行動ではあるが、自ら望んで選択した形で行動が行われている。重要な点は、外発的動機づけの統合的調整の段階は、内発的動機づけへの移行の段階ではないということである。統合的調整の段階では、行動は、あくまでも手段として行われており、行動することそのものに価値を自ら見出し、自己決定して行っている内発的動機づけによる行動とは明確に区別される。

問２

「隠れたカリキュラム」とは、学校教育の中で無意図的に伝達され、子どものジェンダー形成に影響を及ぼすと考えられる価値観や態度のことである。例えば、集会等における整列、昇降口の下足入れなどは男女に分けられる場合が多い。また、出席名簿の作成時には、男子の名前が先にならび、女子の名前がその後にならぶなどということも自然に行われる場合がある。これらは、男女が異なる存在であることを示すのと同時に、男女の上下関係や優先順位などの意味を含むことになり、ジェンダー・ステレオタイプやジェンダー・ロールの形成に影響すると考えられている。体育授業場面の例としては、上記の例のような整列における男女の区別やビブスの色を男子は青や緑、女子はピンクや赤などに区別する場合などがあげられる。